

# SILK JOURNAL 2020

1000年を超えて、ソーシャル・イノベーションし続ける街  
KYOTO CITY = The Social Innovation City lasting over 1000 years

## 日本を代表するアート「風神雷神図」は 商いの現場から生まれました

作者である俵屋宗達は、江戸時代初期、京都で扇絵や屏風絵などを制作販売する工房を営んでいました。宗達が描いた「風神雷神図屏風」の、従来の枠にとられない構図や主題、技法は、絵画界に新風を吹き込みます。後に尾形光琳らがこの作品から学びを得て、琳派の発展へとつながりました。絵師たちにより時代を超えて継承されてきた、風神雷神図。先達の作り上げた表現を汲み取りつつ、時代ごとに独自の解釈が加えられ、様々な作品が生まれました。

## SILK JOURNALとは

近年、日本はもとより世界中で、利益や効率性のみを追求するのではなく、「社会的課題を解決すること」「社会的課題を生まないこと」を目指すビジネスや暮らし方をする人が増えています。私たち京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)は社会的課題に対する革新的な解決法を開発することがソーシャル・イノベーションであると考えています。京都市で起こっているソーシャル・イノベーションをまとめたレポートとして、SILK JOURNALを発行します。

**SOCIAL  
INNOVATION  
LABORATORY  
KYOTO**

京都市ソーシャルイノベーション研究所

# あらゆるビジネスが

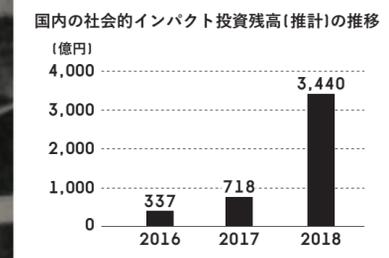
# 社会課題を無視できない時代へ

# 多様な関係者が交わり合う

# オープンイノベーション2.0が

# 世界中で広がっています

社会や環境に配慮したインパクト投資は、世界2,390億ドル規模に。国内でも3,440億円規模へ急成長。



社会的インパクト投資とは、従来の目的である金銭的リターンに加えて、社会や環境へのインパクトを生み出すことを意図する投資です。GIIN (Global Impact Investing Network)\*1によると、2018年度末での世界のインパクト投資残高は2,390億ドル、2018年に新たに投資されたインパクト投資は13,303件、331億ドル。特にリーマンショック以降は、市場への新規参入が続いています。日本国内では、2018年度のインパクト投資残高は推計3,440億円。2016年度(337億円)比で約10倍、2017年度(718億円)比で約5倍の成長率を記録しました。\*2

\*1 GIIN 「2019 Annual Impact Investor Survey」  
\*2 GSG 国内諮問委員会「日本におけるインパクト投資の現状2018」

複数の組織・チームの連携によって起こる「オープンイノベーション2.0」



オープンイノベーションは、外部との交流による技術やアイデアなどの流出入を積極的に活用し、その結果、組織内で生まれたイノベーションを市場に展開する機会を増やすことで実現します。欧州では、イノベーション創出の前提として、これまでの1対1の外部連携による「オープンイノベーション1.0」ではなく、複数の関係先が相互に混じり合う連携体制である「オープンイノベーション2.0」の重要性が提唱されています。\*3

\*3 NEDO 「オープンイノベーション白書(第二版)」

都市のソーシャル・イノベーションの鍵となる「スタートアップ・エコシステム拠点」



欧州では、イノベーションの前提条件として①「社会的な共通課題の解決」というソーシャルイノベーション創出を目的とする必要があること②多様な主体が連携・共創するエコシステムを構築する必要があることの2点が指摘されています。世界では、イノベーションの聖地といわれるシリコンバレーのみならず、「フレンチ・テック」を旗印に世界各国に進出するフランスや、イスラエル、中国深圳など、各国・各地域間でのスタートアップ・エコシステム競争が激化しています。日本でも、内閣府の「総合イノベーション戦略2019」\*4がスタートアップ・エコシステムの形成を含む7つの戦略を掲げています。\*5

\*4 内閣府「総合イノベーション戦略2019」  
\*5 内閣府「世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略」

## HISTORY

### 明治の近代都市化におけるソーシャル・イノベーション「京都策」は教育の改革から始まった

#### 全国初の学区制小学校創設は、町人出資から

明治2年、全国初となる学区制小学校(現在の公立小学校)64校が京都に開校。学校建設費と運営資金の多くは、地域内の全ての戸から平等に資金を集める「かまど金」と、有志の寄付金によりまかなわれました。地域ぐるみで、未来を担う子どもたちの教育に力を注いだのです。「番組小学校」と呼ばれた64校の校舎は、現在でいう公民館や役所、消防署、警察署、保健所などの役割も果たしました。

#### 産業復興のソーシャルイノベーション

明治3年に開設された理化学研究施設「舎密局」は、受講生を公募し、多くの技術者を養成しました。伝統産業品の改良や製造研究を行いながら、日本初となる石炭や鉄砲水(ラムネ)等の飲料、七宝、ガラスの製造など、新しい技術の開発と普及に努めました。教授として招かれたドイツのワグネル博士に師事した島津源蔵は、島津製作所を創業。医療用X線装置など産業の発展に大きく貢献しました。

#### 伝統産業の革新

明治2年には西陣物産会社が設立され、京都・西陣を立て直すために織物の伝習生をフランスへ派遣。伝習生は、海外からジャカード(紋紙を使う織機)をはじめとした最新機器と技術を持ち帰りました。生産効率と品質が向上し、各地での販路開拓にも取り組んだことで、幕末維新の不振から抜け出すことに成功。持ち帰った技術を全国に普及させ、西陣は日本絹織業において、近代的な技術革新の発祥地となりました。

#### 新しい日本画の創造

明治時代、日本の美術界は西洋文化の輸入による激動の時代を迎えました。そんな中、京都の画家たちは、流派を超えて「京都府画学校」「京都美術協会」などのシステムを生み出していきます。西洋画の技術や技法も積極的に学び、それぞれの流派が互いに切磋琢磨しながら、芸術の中心という京都の立場を守っていきました。



▲ 番組小学校 | 京都市学校歴史博物館 ▲ 京都市芸術大学 芸術資料館 ▲ 島津製作所 | 国立国会図書館

## HISTORY

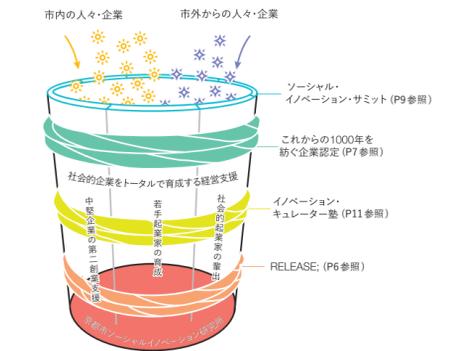
### 1000年を超える歴史を紡いできた、ソーシャル・イノベーション・シティ

平安京は渡来人協力の下、平和、安心、安寧をコンセプトに造られました。鍵で閉ざされた門や城壁はなく、国内外から多様な人が集い、力を合わせて活動する都。それが約1200年前の京都の姿でした。伝統と革新を融合し、新しい文化を創造し続けてきた京都の成り立ちには、オープンイノベーションを創発させる都市計画があったと言えます。

その後、中世の戦乱を経て、近世には文化や芸術を豊かに発展させた京都のまち。しかし、明治政府の樹立後、事実上の東京遷都により人口が激減し、都市存亡の危機に瀕します。そこで立ち上がったのはまちに暮らす人々でした。市民が丸となり、数々の産業復興、近代化の施策を繰り返していったのです。

### 京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想

『京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想』は、ソーシャル・イノベーションに取り組む市民・企業・NPO・大学などの多様な組織や個人、それらを応援する人々が、社会的課題の解決や、そもそも課題を生まないための挑戦をすることで、「過度の効率性や競争原理とは異なる価値観」を広めていく構想です。京都から日本の未来を切り拓いていくことを目指しています。



多様な主体を生み、育て、誘致する「桶」のイメージです。桶を構成する「立板」部分は「社会的企業をトータルで育成する経営支援」を、立板を締める「籠(たか)」部分は「立て板部分の支援策と複合的に連携する支援策」を表しています。

### 京都市ソーシャルイノベーション研究所 (SILK)

自ら物事を進んで行う「町衆の文化」と伝統を守りながら、革新を繰り返し、1000年以上の歴史を紡いできた京都。日本全国、さらには世界から、ソーシャル・イノベーションの創出に挑戦する人々がこの地に集まってきています。京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)は、ソーシャル・イノベーションに取り組む企業や個人を応援する人々と共に、日本と世界の未来を切り拓いていく『京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想』を実現するために生まれた産業支援組織です。

### 公益財団法人京都高度技術研究所 (ASTEM)

科学技術の振興と地域社会の発展に寄与するとともに、中小企業に対する総合的な支援を行い、京都市内の中小企業の振興と地域経済の活性化を図る機関です。



## 連続インタビュー

# 価値観と関係性が紡ぎ続ける経済圏

2020年6月、緊急事態宣言は解除されたものの未だ感染予防が欠かせない中、オンラインを中心にインタビューを行いました。QRコードから各インタビューの詳しい記事をご覧ください。



京都がイノベーションのまちで  
あり続けた理由

京都市ソーシャルイノベーション研究所  
所長  
大室 悦賀



地域に選ばれ続ける企業とは  
無形の価値を紡ぐ重要性

京都大学経営管理大学院 教授  
原 良憲さん



社会を豊かにする価値観とは  
幸福と社会貢献の関係性

京都大学こころの未来研究センター教授  
内田 由紀子さん



「いけず」の曖昧さが多様性を生む。お金に  
換えられない価値を感覚的に捉える京都人。

京都人の「いけず」なあり方が、まちの多様性や柔軟性のベースにあると思います。お茶漬けを勧められたら帰らなければいけないという話が有名ですが、そこには別の行動を選べる余白があります。つまり、実際にはお茶漬けを食べちゃって帰らない人がいてもいいわけですね。「いけず」の持つ曖昧さがイノベーションには重要なんです。

また、京都では事業者は貨幣価値だけで評価されません。長く続くこと、地域に愛されることが求められます。お金に換えられない価値を持っているから、事業にも余白ができ、新しいものが生まれます。経済合理性しか考えなくなると、イノベーションは起こりません。持続可能なビジネスが育つ背景として、寺社が多く、仏教や自然崇拝の思想が生活に根付いていることも大きいでしょうね。

京都は常に不安定な状態で歴史を刻んできました。戦が多く、首都の移転も経験したからこそ、続けることを大切にしてきたのだと思います。社会を俯瞰し、ステークホルダーに配慮しながら経営をするためには、ある程度のゆとりと安定が必要です。コロナ禍においても、日頃から社会に目を向けている企業は、早い段階から新しいことを仕掛けていきますよね。

コミュニティに依存しない「個」が集まる町。  
合理性と非合理性を併せ持つから、おもしろい。

コミュニティのあり方も京都は独特ですね。ネットワークが重要視される反面、個人が自律しているから、人がコミュニティに依存していない。さらに、良い意味で行政の影響力が弱いので、市民と企業によるイノベーションが起こりやすく、細かなニーズに対応できていることも特徴的です。

京都には二重性があります。合理性と非合理性が同居しているし、客観的なものが全てではないと思っている。客観的にすると何でも分かりやすくなるけれど、それではつまらないと考える人が世界的に増えています。京都に研究やデザインの拠点を置く企業が増えているのも、土地に息づく価値観が生む余白や曖昧さに意義を見出しているからです。今の日本は残念ながら、大都市が地方からの二択しかない状況です。各地方都市が経済合理性だけにとらわれず、もっとその土地らしい価値観を出していくことが大事ですね。

周りによい影響を与え、業界や地域を  
活性化させる触媒的企業の価値。

企業の特徴を捉えるとき、私は「面的生産性」という考え方を持っています。ある企業がビジネスの流れの中に入ることによって取引先や同業他社が元気になって、業界や地域全体が活性化することがあります。企業単体の数字は小さくても、ネットワーク全体を見ると、その企業の影響を受けて生産性が上がっている。こういう企業の価値に注目しています。

日本の企業はこれまで、全方位的な総合企業を目指してきました。一方、シリコンバレーではある領域に特化した事業展開が主流ですが、どちらにも弱いところがあります。その点、京都はバランスがいい。「伝統と革新」「貴族文化と町衆文化」のような、相反するものを共存させるのが上手ですね。これが、不景気や災害など危機に直面した時の回復力、レジリエンスにつながっています。歴史の中で文化や学術が培ってきた土壌が、共存を支えているのだと思います。

企業の社会的な価値を測るときには、長期的な見方が必要です。四半期ごとに収益の最大化を迫る株主資本主義的な視点では、捉えられないものがあります。投資家の視点が変わってきたことで、企業も大きく変わってでしょう。今の時代は有形の価値よりも無形の価値が大切です。例えば「おもてなし」は決算書には載らないけれど、長い目で見れば持続的な収益に強く影響を与えているのではないのでしょうか。

人間の良さ、京都の良さを保ちながら  
ITを使って規模を拡大する方法を考えよう。

京都には、伝統の形を変えずに細々と継承してきた老舗よりも、常に革新を続けてきた老舗が多い傾向が表れています。ある調査では、長寿企業は“やらないこと”を明確にすることで、時代に合わせてその企業らしい発展を遂げてきたという興味深い説が出てきました。また、京都の商いには顧客を鍛えるという文化がありますね。事業者とお客様が共に感性を高め合せて信頼関係を構築し、いいものが残ってきたのだと感じます。

グローバル化・デジタル化が進んだ現代においては、表面的な効率化ではなく、人間が作った良さ、京都らしい良さを保ちながらITを活用して規模を広げること。これが京都の次のチャレンジだと思います。

信頼関係が資本になる。人と人との  
つながりへの投資が価値を生む。

地域や企業の資本を経済とは違う軸で捉えると、価値観の共有による「信頼関係」の大切さが見えてきます。経営陣の意思決定について社員が“なぜそうなったか”を理解できる企業は、信頼関係が豊かですね。関係先や顧客にもその価値観を伝えることで、社外にも信頼関係が開かれ、組織がオープンになって仲間が増え、イノベーションが起こりやすくなるという好循環が生まれます。

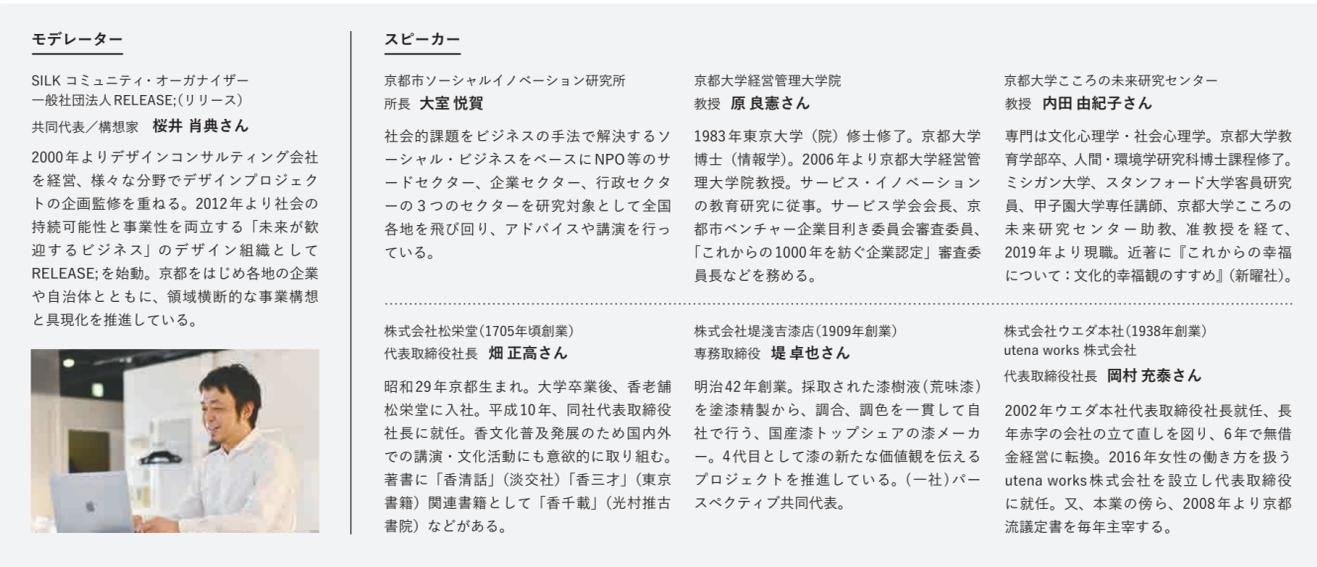
うまくいっている地域や企業には、人と人をつなぐ役割を担う人物がいることが多いです。色々な人から意見を聞きながら、話し合いの場を設けたり意思決定のサポートをしたりすることで、自然と価値が共有されます。人を置くにはコストがかかりますが、こういう人物が一人いるだけでコミュニケーションが大きく広がるので、投資する意義は大きいです。

過去や社会とのつながりを意識すると、  
人は社会貢献を幸福と感じられる。

文化心理学では、社会の中で共有されている価値観が私たちの心にどう影響するのかを考えます。長年培われてきた社会通念を変えるのは難しいですが、今回のコロナは転換点になり得ます。ただ、人はどうしても便利な方、楽な方に流れてしまうので、こんな時こそ気をつけなければいけません。目先の問題への対処に留まらず、時間軸、空間軸ともにいつもより大きなスケールでビジョンを描くことが大事です。その中では、些細なことでも社会に貢献するという意識を培う方法を探っていききたいですね。広い視点で動く人が増えることにより、小さな価値観の共有が重なって、結果的に集団内の人々の行動が変わっていきます。

人は、社会に何らかの貢献をすることを幸福と感じることができます。しかし、自分が過去や社会からの恩恵を受けている感覚がないと、その感度が鈍ってしまいます。貨幣経済によってモノが手元に届くまでの背景が見えづらくなり、安直な意思決定が増えているように感じます。

その点、京都は稀有な土地です。多様な人がいて、関係性の流れや、持ちつ持たれつものやりとりが見えやすい。京都から新しい価値を発信することで、社会に新しい物語が広がっていくことを期待しています。



## モデレーター

SILK コミュニティ・オーガナイザー  
一般社団法人RELEASE;(リリース)  
共同代表/構想家 桜井 肖典さん

2000年よりデザインコンサルティング会社を経営、様々な分野でデザインプロジェクトの企画監修を重ねる。2012年より社会の持続可能性と事業性を両立する「未来が歓迎するビジネス」のデザイン組織としてRELEASE;を始動。京都をはじめ各地の企業や自治体とともに、領域横断的な事業構想と具現化を推進している。



## スピーカー

京都市ソーシャルイノベーション研究所  
所長 大室 悦賀

社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャル・ビジネスをベースにNPO等のサードセクター、企業セクター、行政セクターの3つのセクターを研究対象として全国各地を飛び回り、アドバイスを講演を行っている。

京都大学経営管理大学院  
教授 原 良憲さん

1983年東京大学(院)修士修了。京都大学博士(情報学)。2006年より京都大学経営管理大学院教授。サービス・イノベーションの教育研究に従事。サービス学会会長、京都市ベンチャー企業目利き委員会審査委員、「これからの1000年を紡ぐ企業認定」審査委員長などを務める。

京都大学こころの未来研究センター  
教授 内田 由紀子さん

専門は文化心理学・社会心理学。京都大学教育学部卒、人間・環境学研究所博士課程修了。ミシガン大学、スタンフォード大学客員研究員、甲子園大学専任講師、京都大学こころの未来研究センター助教、准教授を経て、2019年より現職。近著に『これからの幸福について：文化的幸福観のすすめ』(新曜社)。

株式会社松栄堂(1705年頃創業)  
代表取締役社長 畑 正高さん

昭和29年京都生まれ。大学卒業後、香老舗松栄堂に入社。平成10年、同社代表取締役を塗漆精製から、調合、調色を一貫して自社で行う、国産漆トップシェアの漆メーカーに就任。香文化普及発展のため国内外での講演・文化活動にも意欲的に取り組む。著書に「香清話」(淡交社)「香三才」(東京書籍)関連書籍として「香千載」(光村推古書院)などがある。

株式会社堤浅吉漆店(1909年創業)  
専務取締役 堤 卓也さん

明治42年創業。採取された漆樹液(荒味漆)を塗漆精製から、調合、調色を一貫して自社で行う、国産漆トップシェアの漆メーカー。4代目として漆の新たな価値観を伝えるプロジェクトを推進している。(一社)パースペクティブ共同代表。

株式会社ウエダ本社(1938年創業)  
utena works 株式会社  
代表取締役社長 岡村 充泰さん

2002年ウエダ本社代表取締役社長就任、長年赤字の会社の立て直しを図り、6年で無借金経営に転換。2016年女性の働き方を扱うutena works株式会社を設立し代表取締役就任。又、本業の傍ら、2008年より京都流議定書を毎年主宰する。



江戸から明治へ  
のれんを守り続けた老舗企業

株式会社松栄堂 代表取締役社長  
畑 正高さん



戦前から戦後へ  
技術革新と新しい役割

株式会社堤浅吉漆店 専務取締役  
堤 卓也さん



高度経済成長期から現在へ  
地域企業はどうあるべきか

株式会社ウエダ本社 代表取締役社長  
utena works 株式会社 代表取締役社長  
岡村 充泰さん



苦難の連続だった300年。  
世界との信頼関係が事業を支える。

創業からの約300年を振り返ると、鎖国や戦争、そして後継者の問題もあり、特に明治維新の頃は苦難の連続でした。貿易船が沈んで原材料が手に入らなかったり、幕末の動乱で家も焼けています。各時代を生きた一人ひとりが一所懸命に危機を乗り越え、のれんを守ってきたことを感じます。

私は1977(昭和52)年の入社後、まず香房で働きました。その時に感じたのは、“今いる職人たちが元気なうちに、彼らが認める製品を機械で作れるようにならないかん”という危機感でした。職人の香房は今もありますが、長岡京の工場で作ったお香が香房の手仕事に品質で劣ることはありません。ただ、機械では扱えない原材料もあるので、松栄堂のものづくりにはこちらも大切なんです。

お香は日本の伝統産業ですが、原材料は全て、香港やベトナムなど海外から調達しています。私も現地を訪れて、熱帯雨林や町を歩きますよ。政治情勢や自然環境など様々な問題の影響を受けるので、状況をよく知る現地の仲間との信頼関係を何よりも大切にしています。輸出も含め、我々の仕事は世界と一緒にあると常に意識しています。

新しいお客様と出会う場を創る。  
水の豊かな京都に日本の文化が凝縮された。

1989(平成元年)年に始めたブランド「リスン」は、ニュートラルな目を持つお客様に出会うための挑戦でした。お香を「インセンス」と呼び、新しい価値を発信する店舗を作りました。これは松栄堂の本店ではできないことなので、リスンのお店を通じて得られる情報はとても新鮮です。日々受け継がれてきた技術と品質をきちんと守った上で、新しいお客様や次の世代にも理解していただけるよう工夫を重ねています。

京都は日本の文化が凝縮された場所です。先人たちは藤原京や平城京を経て、水の豊かなこの地に平安京を築きました。疫病や戦の災禍を洗い流すための水が十分にあるから、京都は大都市として続てきました。また、日本は島国なので、海が外の世界との間でフィルターの役割を果たしてきました。しかし、現代のIT社会では、情報やお金が海を越えて直接入ってきます。今の京都人には、継承してきた文化を自分たちの手で守っていく責任があるのではないのでしょうか。

業界が縮小する中、各時代に合った  
技術革新を続けてきた。

今、日本で扱われる漆は、ほとんどが中国産です。その中国産漆も、昭和初期に年間2,000トンあった輸入量が、2018年には年間36トンにまで減っています。知れば知るほど漆をめぐる問題の大きさ、深さには頭を抱えています。

曾祖父である初代 堤浅吉が漆の精製業を始めたのは、明治の終わり頃。江戸時代は幕府に守られていた国産漆ですが、明治以降、その市場は縮小の一途をたどります。やがて戦争が始まると、漆の輸入量は激減し、政府の統制により休業を余儀なくされました。砲弾などの錆止めに漆が使われたのです。工場の道具も軍用資源として取られてしまったのですが、曾祖父が必死に隠したクロメ鉢が1つだけ、今も残っています。

第二次世界大戦後は中国からの輸入が不安定になり、さらに漆を真似た合成塗料が急速に普及します。2代目となる祖父が事業を続けられたのは、金箔を貼るための漆を作る特殊な技術のおかげでした。次の父の代では、叔父と共に化学的な影響を受けるので、状況をよく知る現地の仲間との信頼関係を何よりも大切にしています。輸出も含め、我々の仕事は世界と一緒にあると常に意識しています。

漆という素材の価値を伝え、  
新しいものづくりの生態系を作りたい。

事業が長く続いてきた理由のひとつが、素材に対する敬意が受け継がれてきたことだと思います。一滴でも無駄にすれば怒られましたね。漆は湿度や温度によって日々変化するので、毎日触れることでしか扱う技術は身につけません。“山の様子や産地の現状を含め、漆の価値と可能性を自分たちが世の中に伝えていかなければいけない”という思いは、経営的に考えたのではなく、工場と漆と向き合う中で自然と湧いてきました。

今、国産漆は国の施策で守られていますが、施策もいつかわります。危機感を抱いて、「うるしのいっぱい」という漆の普及活動を始めました。サステイナブルな素材である漆を塗った木製サーフボードを作り、オーストラリアにも行きました。京都には、漆を塗る塗師さん、蒔絵師さん、呂色師(ろいろし)さん、そして使う人……多くの人が関わるものづくりの生態系があります。僕の役割は、文化財の領域を超えて、全く新しいところに漆の生態系を育てていくことだと思っています。

厳しい状況でも誇りを持って働いてほしい。  
そのためには、思いを伝えるしかなかった。

京都の人は、規模や売上だけで企業を見ませんよね。他に大きい会社があっても、一番に始めたことや長続きしていることを理由に、弊社を大切に思ってくださる方が沢山います。

「宇宙を想え、人愛せ」という社は、創業者である祖父の時代から受け継がれてきました。祖父はセスナ機を飛ばしてのピラマキなど、広報に注力して文具卸業を大きくしてきました。さらに、全国の卸売企業を巻き込んだ団体の立ち上げなど様々な取組を主催していたので、僕が働き始めた時、取引先の方々が祖父の話をよく聞かせてくれました。

しかし父の時代には業界の構造が大きく変化し、文具卸の仕事は危機に直面します。僕が会社に戻ったのは1999(平成11)年。状況を知らずにつれ、ここで自分が逃げたら確実に会社はつぶれると覚悟しました。闘いと改善を重ねてなんとか経営を立て直せたものの、問題はそこからです。銀行に再建計画を提出する時に、“その前に、社員にちゃんと話をせなあかん”とふと立ち止まって考えたんです。厳しい状況でも誇りを持って働いてもらうには、何を伝えるべきなのか……悩んだ末、自分はどうな人間で、どんな会社をつかっていきたいかを書いた社内向けの計画書を作り、全員に配りました。「社員の過半数が私以外の人を社長に適任と見なした場合」など社長を辞任する条件を書いた「社長の約束」も、この時に作ったものです。

京都の地域企業は、今後さらに独自性を  
磨いていくべきだと思う。

“オフィスだけでなく、全ての働く環境に人の個性を活かす提案をする「はたらく総合商社」になろう」という考えは入社当時からありました。最初は社員にも全く伝わりませんでしたよ。人とのつながりが生む価値を経験してもらうために試行錯誤を重ね、この数年でやっと意識が変わってきました。

京都には独自の価値を尊重する経済文化があるから「分かる人が分かってくれたらいい」という姿勢で事業が成り立つんです。他社の真似で拡大しても、品がないと思われて評価されません。京都の地域企業は今後さらに独自性を磨いていくべきだと思います。皆それぞれに自社らしいビジネスを考えて、もっとおもしろいまちにしていきたいですね。



京都市地域企業未来力会議



2016年より延べ1,511人もの多様な業種の若手・中堅経営者等が集まり、領域を横断するようなビジネスやアイデアの共有を行ってきた未来力会議。2018年には「京都・地域企業宣言」が発表されました。企業の規模を基準とせず、地域との繋がりに着目した全国初の宣言は、新しい時代をつくる旗印として大きな可能性を秘めています。

地域企業宣言 (抜粋)

わたしたち地域企業は、

- 一、自助努力や各企業の連携・融合により社業の持続的発展を追求する。
- 一、生活文化の継承、安心安全、地域コミュニティの活性化に貢献する。
- 一、働きがいや社会に貢献する喜びを大切に、若者をはじめ多様な担い手の活躍を支援する。
- 一、受け継いできた文化や知恵、技術を学び、新たな価値の創造に挑戦する。
- 一、森や水の恵みを活かし、暮らしを支える豊かな自然環境の保全に寄与する。

全文はこちら ▶



地域企業応援協会

つながる知恵。ともに拓く未来。

地域企業応援協会は、「市内に本店を有する事業者」であれば誰でも申し込むことができ、経営者も従業員も同様に、1時間という枠の中で「新たに取り組みたいビジネスアイデアやプロジェクト」の具体化・実現に向けて、幅広い知見を持ったビジネス・コーディネー

ターからヒントを得られる機会です。また年間を通して、繰り返し応援会に申し込めるため、地域企業は課題を共有し合うことができます。志を共にする企業間連携がいくつも生まれています。



京都オーガニックアクション

持続可能な農と食のありかたについて考える、100人を超える生産者、流通業者、研究者の集まりから、遠隔地の農産物を都市部へ運ぶ共同便が生まれ、2018年には団体を設立。未来力会議を経て京都市で組合設立を検討しています。

京都オーガニックアクション協議会 理事長 鈴木 健太郎さん



irodori

「働きたくても働けない人に働ける環境を」という理念で運営しています。多様性を活かした仕事や組織作り、より良い事業への新しい視点も助言で気付くことができ、何のための事業かを自分の中で再確認できたと感じます。

就労継続支援A型事業所 irodori 所長 小島 拓也さん



林業女子会

「林業女子会@京都」や公共団体等と連携して、京都の木文化・おもてなしをテーマにツアーを1回実施しました。応援会では毎回、紙の上で図やキーワードを用いて考えの整理をしてもらえ、考えずにすぐ行動する自分を振り返ることができ難かったです。

(株)Hibana 代表取締役 松田 直子さん



Kyoto Love. Kyoto

京都のコアな情報サイトを運営しています。SNSによりターゲット層が異なることや、サイトのデザインをどう変えるか相談しました。今していることが将来どのように役立つか、何を伝えたいかを再認識し、社内の結束力が強まりました。

サンケイデザイン(株) KLK編集長 寺谷 ござえさん

世話人からのメッセージ

京都の企業の本質は、各地域の中で、地域と繋がり、地域と共に継承・発展してきたこと。規模だけでは測れない価値があります。地域企業宣言には、人、自然、地域を大切に、未来を見据え活動する皆さんの思いが込められています。



(株)芳村屋 / 京都青年中央会 顧問 芳村 敦さん

未来力会議では、経営者の皆さんが業種の枠を越えて、新事業のアイデアや振興策について活発な議論や行動。毎回、新たな出会いや気づき、そして繋がりが生まれており、社業や地域活動など様々な成果に繋がっています。



生活空間 ASANOYA / 伏見大手筋商店街振興組合 代表理事・会長 浅野 雄祐さん

全国初「地域企業の持続的発展の推進に関する条例」を制定

京都市は「京都・地域企業宣言」の趣旨に賛同し、その理念を広く浸透させ、地域企業の活動と持続的発展を支援していくため、条例を制定。具体的な支援策を実施しています。

輝く地域企業表彰

地域と共に継承・発展する企業を「地域企業」として市民・地域ぐるみで応援するため、京都市では2019年に「京都市輝く地域企業表彰」制度を創設。「地域企業」の理念の浸透及び実践の促進を図っています。

被表彰事業者一覧はこちら ▶



(一社) リリース 共同代表 風間 美穂さん



京都の知恵と技術が新しい挑戦を応援する共創の場

**主な連携機関**

- 京都府
- 京都府 日本貿易振興機構 (JETRO)
- 京都市
- 京都産業21
- 京都商工会議所
- 京都高度技術研究所 (ASTEM)
- 京都信用保証協会

KOIN(Kyoto Open Innovation Network)は、新しい一歩を踏み出す人のための共創の場。京都経済センターの3階を舞台に人々の交流と協働を促進し、新たなビジネスを創出しています。ミーティングの場としての活用はもちろん、多様な知恵と出会うイベントの開催、事業相談や京都産業界全体での応援を可能にするコーディネーターの常駐など、新しい一歩を踏み出す人のための環境を提供しています。

運営は、京都府、京都市及び産業界のオール京都体制により設立された「一般社団法人 京都知恵産業創造の森」。「時代をつくる出会いを。」をコンセプトに、起業・創業をめざす方、学生、ベンチャー・若手経営者、先輩企業家、産業支援機関など、様々な人々がフィールドを超えて集い、互いを高め合う共創を促進することによって、新たなビジネスモデルの創出を多様なネットワークで応援しています。

SOCIAL IMPACT

～2020年3月末現在

- 利用者数 ..... 26,276 名
- 会員登録者数 ..... 2,657 名
- イベント開催数 ..... 305 回
- イベント参加者数 ..... 11,126 名
- セミナー開催数 ..... 152 回
- ピッチイベント開催数 ..... 13 回
- 交流イベント開催数 ..... 48 回

主催イベントシリーズ

京都に選ばれ続ける企業経営を学ぶ全4回

京都経済人が誇りに思うような歴史や実績を持つ企業の経営者をお招きし、100年を超えて続く企業が世界で最も多い街、京都ならではの経営の知恵を、対話によって紐解き、「京都の経営」を考える時間にしたいと考えました。



(株)ウエダ本社 代表取締役社長 岡村 充泰さん

自分を生かして働くための全4回

企業に所属しながらも自分らしく働き、創造性を高め、豊かな人生を送れるような「働き方」を考えるシリーズ。参加者との対話によって、自らの働き方を丁寧に見つめ、これからの仕事を導くコンパスを探る時間にしたいと考えました。



(株)ワコールホールディングス ダイバーシティ・グループ 人事支援室 室長 鳥屋尾 優子さん

U35起業家育成プロジェクト

「これからの時代をつくる経済活動」を探索するシリーズ。起業家やスーパーノマドな働き方、SDGs、ITやARTなど様々なテーマで開催。令和時代を体現するゲストとともに、京都の明日をつくる集いとなりました。



(株)美京都 代表取締役 中馬 一登さん

KOIN アクセラレータープログラム

「〇〇をやりたい。」の具体化・実現に向けて、ビジネス・プロデューサーや起業家から助言やヒントを得られるほか、KOINスタッフが伴走し多様な連携機関とのネットワークングを実施。アイデアの実現を応援しています。



(一社) リリース 理事 前田 展広さん

**RELEASE;**®

RELEASE;は「未来が歓迎するビジネスをつくる」ための非常利型ビジネスプロデューサーカンパニーです。京都市地域企業未来力会議やKOINのように、パートナーとなる自治体や企業とともに、オープンイノベーションの手法を軸として、業態やブランド開発、商品やサービス開発、イベントやメディアづくりに至るまで、あらゆる領域でビジネスを共創し、多様性のあるエコシステムをつくれます。

KOINの担うべき役割は、ビジネスプレイヤーの夢を京都経済センターに集う多様な産業支援機関へつなぐだけでなく、数多くの老舗企業や世界的な企業を育む京都の有する経済文化とつなぐこと。KOINという愛称には「京都の生み出す価値は、COIN (貨幣) だけではない」という想いが込められています。



(一社) リリース 共同代表 桜井 尚典さん

OTHERS 市内のスタートアップ・エコシステムの広がり



Plug and Play Kyoto

世界トップレベルのグローバルベンチャーキャピタル/アクセラレーターとして、日本で2つ目となる拠点を京都市に開設。京都を世界有数のスタートアップ・エコシステムの場にすることが私たちのミッションです。



toberu

社会課題の解決が利益と社会的インパクトを同時に追求する21世紀型起業を支援する株式会社フェニクシー。企業に籍者を受け入れるレジデンス併設インキュベータ"toberu"や新規事業育成ファンド等のエコシステムを提供。



(株)taliki

社会課題解決をビジネスにして育て、資金需要を満たす会社。社会起業家のアクセラレーションとファイナンスの要素を京都に補充し、上場企業や行政を含む全セクターのためのエコシステムを形成する。



京都スタートアップ・エコシステム推進協議会

経済団体、産業支援機関、大学、金融機関等と行政が一体となって、京都府全体で起業家を生み育てる環境整備を目指す。世界に伍するスタートアップ・エコシステムを推進するため、2019年12月に設立された。



# これからの 1000年を紡ぐ 企業認定

CERTIFICATE TO AN ENTERPRISE  
WEAVING A THOUSAND YEARS  
INTO THE FUTURE

## 社会的課題にビジネスとして取り組む企業を支援し、持続可能な社会を目指す

社会的課題をビジネスで解決している企業や、社会的課題を生まない新しい事業モデル・サービスを創出している企業を認定。各企業の目指す未来を実現するために、オーダーメイドの伴走型支援を行う。

### 3つの審査基準

1. 経営理念の実践
2. マルチステークホルダーへの配慮
3. ソーシャルイノベーションの創出

### 四方良しの社会づくり



### 認定企業一覧（2020年4月時点）

- 第1回 株式会社 和える / IKEUCHI ORGANIC株式会社 / 株式会社坂ノ途中 / 有限会社シサム工房 / 株式会社食一 / Dari K株式会社
- 第2回 株式会社アラキ工務店 / 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス / 株式会社フラットエージェンシー / 株式会社ヘルプ
- 第3回 有限会社セメントプロデュースデザイン / 特定非営利活動法人寺子屋プロジェクト / 株式会社日本の窓
- 第4回 株式会社イワタ / 株式会社カンブライト / 有限会社匠弘堂 / 株式会社発酵食堂カモシカ / プレマ株式会社 / 株式会社マザーハウス / 有限会社ワックジャパン
- 第5回 アポワールインターナショナル株式会社 / 株式会社L&Gグローバルビジネス / 株式会社ナールスコオペレーション / 株式会社FUKUDA



## 認定を受けたことによる変化

第1〜4回認定企業の皆さんに聞きました。

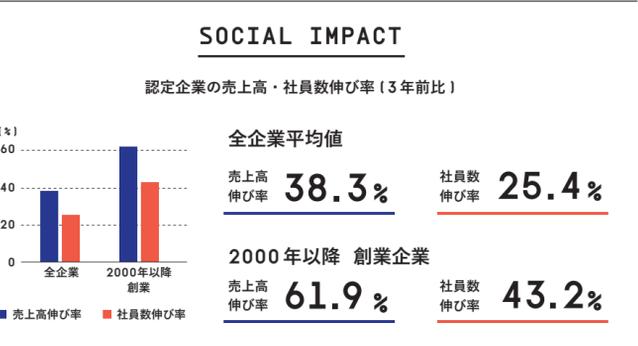
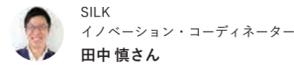
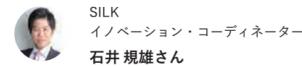
- 『知名度が上がった』
- 『他の認定や受賞につながった』
- 『メディア取材が増えた』
- 『取組が社内外に浸透した』
- 『営業先からの評価が上がった』
- 『メディア取材の内容が変わった』
- 『スタッフの意識が変わった』
- 『イベント登壇依頼が増えた』
- 『出店依頼をもらった』
- 『採用がしやすくなった』
- 『ネットワークが広がった』
- 『金融機関からの評価が上がった』
- 『地域のひととの交流が増えた』
- 『事業承継を意識するようになった』

## SILKの認定企業支援のあり方

### 多様な外部パートナーと連携して行く、オーダーメイドの伴走支援

認定企業の叶えたい未来を実現するためのサポートを行っています。支援ニーズや成長ステージは企業によって様々です。まずはSILKが支援ニーズを拾い上げて、個別企業に応じた支援を行っています。例えば、コーディネーターによる経営支援や広報協力等の個別支援、認定企業同士の交流イベントの企画・開催や場の提供による企業間マッチングやコラボレーション創出等、様々な伴走支援に取り組んでいます。

支援には決まったメニューはなく、人材採用、販売促進、広報支援などの個別のニーズに対してオーダーメイドの支援をしています。SILKのコーディネーターはそれぞれ経営コンサルティングやコミュニティづくり、新規事業創出など得意分野が違い、お互いの専門性を持ち寄って認定企業を支援しています。また、金融機関や民間企業の支援パートナーも交えて、京都のエコシステムで支えていることがユニークな点です。



## OTHERS その他の取組

### 支援パートナー会議

認定企業が直面している課題や協力を募りたいことを一社ずつ発表。その後、「雇用・採用」「資金調達」「販売促進」「従業員育成」「コラボレーション」などのテーマに分かれて、支援パートナーの皆さまが認定企業にアドバイスや提案をする場。多様な視点から意見交換を行い、認定企業の目指す未来を支援している。



### 【ご参加いただいた支援パートナー】

(株)ウエダ本社 / オヤノミカタ / 京都銀行 / 京都市 / 京都CSR推進協議会 / 京都市わかもの就職支援センター / 京都信用金庫 / 京都中央信用信用金庫 / 京都府 / 京都府中小企業診断協会 / (株)Sooods. カンパニー / (独)中小企業基盤整備機構 近畿本部 / 凸版印刷株式会社 / トミーブランニング / (株)日本政策金融公庫 / (株)ピオスタイル / 東大阪異業種交流グループ 丹丹21 / フューチャーベンチャーキャピタル(株) / ミライ企業プロジェクト / ゆず兄弟 (五十音順・敬称略)

## 認定企業同士のコラボレーション

新たなエコシステムから新たな商品づくりが生まれています。

社会課題への向き合い方や目指す未来に共通点があるため、認定企業の代表やスタッフ、ファンの方々同士のつながりが強くなり、新たなエコシステムが形成されています。合同イベントや商品開発など、多様なコラボレーションが生まれました。たとえば、IKEUCHI ORGANICと坂ノ途中のセット商品「食べる野菜・食べられない野菜」やトークイベントなど。認定企業が増え、今後ますます横のつながりから新たな商品等が、生まれる動きが加速しそうです。



### 【コラボレーション事例】

- **IKEUCHI ORGANIC** × 坂ノ途中  
野菜とタオルのセットを販売
- **カンブライト** × **カモシカ**  
缶詰・瓶詰商品を開発
- **Dari K** × **食一** × 坂ノ途中  
転職トークイベントを開催
- **テラ・ルネッサンス** × **寺子屋プロジェクト**  
子ども向けワークショップを開催
- **和える** × **ヘルプ**  
離乳食イベントを開催

認定企業同士、目指す未来が近いので、そのファンの方々には、弊社の目指す社会を理解していただきやすいです。また、コラボ企業やそのファンの方とつながることで、仲間が周りにたくさんいる感覚を持つことができるのも嬉しいです。



IKEUCHI ORGANIC 京都ストア店長 益田 晴子さん

## 東京での合同採用

### 移住も転職も相談できる場の提供



多くの認定企業が人材採用のニーズを抱えています。京都市等との共催で、東京での「ソーシャル企業と考える京都移住転職計画」を過去2回開催しました。京都への移住に関心があり、働き先を探している方が各50名程度参加。認定企業のことを知らなかった参加者も多く、ソーシャルな取組を知ってもらう機会にもなりました。

私たちは東京に本社がありますが、京都の他の企業様や、SILKの皆様と「京都で働く」ことを発信でき、単独での発信よりも多面的な角度から、弊社で働くことについてイメージしていただけたように感じました。



(株)和える 西日本事業責任者 田原 夏波さん

## 横のつながりを広げる

### コラボレーションやつながりを生み出す場の提供



歴代認定企業の経営者やスタッフの皆さんが一堂に会する納涼会を、毎年開催しています。経営者同士がつながる機会がたくさんありますが、スタッフの皆さんが集まる場は珍しく、各社から好評をいただいています。納涼会での交流をきっかけに互いの事業や想いを知り、コラボレーションが生み出される機会にもなっています。

認定企業が一堂に会する初めての機会。これを逃すまいと若手社員2名と参加しました。懇親会では若手社員同士の交流ができ、本人達も笑顔で楽しそうでした。大きな学びを得られたようで良かったです。



(有)匠弘堂 代表取締役 横川 総一郎さん

## NEWS

### 【新規出店】

- **発酵食堂カモシカ**  
GOOD NATURE STATION 内
- **Dari K**  
京都駅内「The Obroma 990」
- **カンブライト**  
寺町商店街内「ひとかん京都本店」
- **坂ノ途中**  
新館内「OyOy」
- **プレマ**  
三条商店街内「Premarché Alternative Diner」
- **ヘルプ**  
洛北阪急スクエア内

### 【新規事業】

- **イワタ**  
新ブランド「unbleached」
- **坂ノ途中**  
新規事業「やさいのきもちカルタ」を開発
- **食一**  
贈答用珍魚を商品開発
- **ワックジャパン**  
日本人向けの日本文化体験事業

### 【その他】

- **IKEUCHI ORGANIC**  
GOOD NATURE HOTEL KYOTOの客室用タオル、ADdress全拠点のタオルに採用
- **寺子屋プロジェクト**  
福井市、青森市、岡山県備前市、滋賀県長浜市で学びの場の開設・運営を支援
- **テラ・ルネッサンス**  
佐賀事務所設立



### 京都大学、同志社大学、龍谷大学

### での出張講義

### 学生への新たな学びと 気づきの提供

大学の先生と連携して出張授業を行い、学生にソーシャル・イノベーションを起こしている企業の目指す未来や事業に触れてもらいます。働くことの意義を考えたり、なりたい将来像を描いてもらうための取組です。



### 中信ビジネスフェアに出展

### 認定企業の取組を知ってもらう 機会の提供

販売促進支援として、京都中央信用金庫の協力を得て「中信ビジネスフェア」に合同出展。認定制度の趣旨と合わせてお伝えすることで、認定企業の商品やサービスを多くの人に知ってもらう機会となりました。



### 京都市スタートアップ支援

### ファンド等からの投資を獲得

### 事業拡大に向けて、 累計8億4700万円を調達

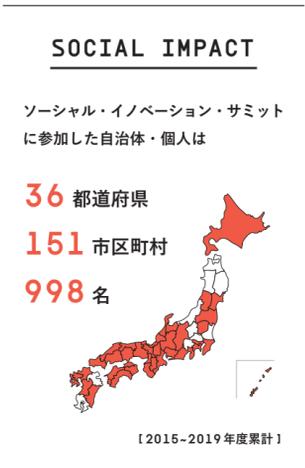
(株)坂ノ途中が、2018年5月に京都市スタートアップ支援ファンド、京信イノベーションCファンド等から総額6億1000万円を資金調達しました。累計調達額は約8億4700万円に。



### 京のまち企業訪問に特集ページ

### 京都ジョブパーク総合情報サイト 「京のまち企業訪問ページ」での特集

認定企業の対談記事を学生記者が作成。「社会課題を主体的に解決する働き方を知ることは、就活の時に仕事と自分の未来を重ね合わせて考えるために大切な要素だと思う」と感想をいただきました。



未来を創造する思考とオープンイノベーション2.0

複雑化・多様化する社会における企業の役割の変化を受け、これからの企業に必要な思考を紐解く場。2019年は「未来を創造する思考とオープンイノベーション2.0」と題して、京都大学にて開催した。トークセッションでは、活動の中で芸術思考を体現する4名の方が「未来を創造する思考方法」をそれぞれの視点から語った。



ウスビ・サコ / 京都精華大学 学長  
木谷 哲夫 / 京都大学 産官学連携本部 教授  
小池 禎 / オムロン(株) イノベーション推進本部デザイナー  
矢島 里佳 / (株)和える 代表取締役

QUESTION 京都拠点を新設された皆さん、京都はどんな街ですか？

（株）テムザック

「起業のまち、京都」で、多くの声援を頂いています

京都ブランドに助けられて、ロボットの新規開発相談が増えています。「前例がないから面白い！」をコンセプトに、様々なニーズに応え、まだ見ぬカタチ「0（ゼロ）から1（イチ）」の「X-ROID」をつくり続けていきます。



中央研究所 所長  
清水 昌樹さん

LINE（株）

関西圏の優秀な人材との接点を増やすことができる

関西圏で働く技術力が高いエンジニアや、周辺の大学でコンピューターサイエンスを学んでいる学生とのタッチポイントとなっています。また、大学機関などとの近さを活かし、AIやインフラ分野をはじめとした共同研究にも力を入れています。



京都開発室 副室長  
御代田 亮平さん

Sansan（株）

グローバル人材や優秀な学生が集まる場

京都は弊社クラウド名刺管理サービスの事業の中核を担う、非常に重要な拠点の一つです。グローバル人材や優秀な学生が集まる京都で、拠点を交流の場としても活用し、京都発信のイノベーションを後押ししていきます。



取締役  
常楽 諭さん

（株）グランディュー

他業種とのコラボが多く行政によるひきこもり支援も厚い

公的資金に頼らず、障害や生きづらさを抱える人たちと一緒に働く場を堺市で2014年に開業し、2年前には京都でビュッタンサロンを設け、今春カフェをオープンします。次は京都から企業へのハンズオン支援事業をスタートさせます。



代表取締役  
小笠原 恭子さん

OTHERS その他の取組

水俣からつなげる地域商社の取組



認定企業とのコラボレーションで熊本の事業者連携が加速

水俣市の牡蠣や蛸で(株)カンブライツと缶詰試作を繰り返し、2019年には熊本県で“富士子ベーコン”を営む事業者とのコラボレーションが実現。菊池市のやまあい村「走る豚」ともベーコンの缶詰が完成間近。

商売に対する熱意や想いに共感した事業者の方々と、京都と一緒に商品開発ができて嬉しいです。市外との交流で気づかされることも多くありますので、今後も水俣内外を結び、食から人を幸せにする地域商社を目指します。



みなまる(株) 代表取締役社長  
笹原 和明さん

ROOTS（コミュニティ・ツーリズム事業）



世界の教育機関とつなげる Study Trip

世界中の学生や専門家を招いた教育プログラムを、京都市京北地域で企画運営。地域の方々と社会課題を学び、解決に向けアクティブに動くStudy Tripを実践。森の京都、奈良県曽爾村、大阪府豊能町等で協働の取組が拡大中。

里山に住む、林業・農業・暮らしの達人「ローカルマイスター」が講師となり、里山のサステナブルな知恵と技を教えるスタディツアーです。地域の宝を再発見し、里山と世界が心の根で繋がる体験を提供しています。



(株)ROOTS 共同代表  
曾根 蘭さん

日本全国への広がり



水俣市 | 四方よし経営の学び舎

環境や未来など、目には見えないところにも配慮した良い経済をまわそうと、地域をリードする経営者育成を目指した経営塾。5年の歳月で“四方よしコミュニティ”が育まれ、京都との連携や新規事業、創業など変革への動きが活発化。



仙台市 | SENDAI SOCIAL INNOVATION SUMMIT

震災を経て課題がより顕在化した仙台・東北で、「社会、地域のため」という想いをもって課題解決にチャレンジする社会起業家たちの声を聴き、彼らと想いを共有し、つながりを深めていくイベント。2018年から実施。



大阪市東成区 | ひがしなりソケット

京都のサミットをきっかけに、2018年度からオープンイノベーションの手法を用いて、企業・市民・団体等が持つ知見やリソースを織り交ぜながら、まちの活性化やSDGs達成に向けた取組を民間主導で実施。



長野県飯山市 | IIYAMA GOOD BUSINESS

CSIアドバイザーメンバーの(一社)リリースと共に、若手事業者が取り組んでいきたいビジネスやアイデアの種を見つけ、プランにまとめ、実現に向けた後押しを行う。スローガンは「生きる」を選べる地域に”。

公立大学法人長野県立大学 ソーシャル・イノベーション創出センター（CSI）



社会人育成を行う信州ソーシャル・イノベーション塾を開校

挑戦するエコシステムを

学生のみならず社会人を含め、ソーシャル・イノベーションに挑戦する人材を育て、支援する。日本中から集うイノベーターと地域や企業、教員、学生を相互に結びつけ、事業支援や起業支援を行う。若者がここで暮らし働きたいと思うような仕事や企業を一つずつ増やしながら、社会課題を生まない持続可能な世界の構築を目指す。



チーフ・キュレーター  
秋葉 芳江さん

SILKから大室、秋葉が着任してスタートしたCSI。学生が作成した“ここからエシカルMAP”や信州ソーシャル・イノベーションフォーラム2019を通じて、京都と長野の企業コラボレーションも生まれています。

OTHERS その他の取組

未来の西京まち結び~みらまち結び~



やりたいことを実現している人がイチバン多い区に！

まちの人たちと行政が協力して地域課題の解決に取り組む、京都市西京区のまちづくり事業。イベントを通して一人ひとりの“やりたいこと”からプロジェクトが生まれ、実現に向けての相談会やスタディツアーを開催した。

みらまち結びを通じてユニークな方々にお会いしました。個々のユニークな部分を融合して、「新しい京都の一面を西京区に作りたい」と日々考えております。これからも、西京区をパワーアップさせていきます！



西京区役所 まちづくり推進担当  
事業係長  
木村 桂子さん

とよのわたし研究室



わたしが変われば、地域が変わる。内発的イノベーションの地域づくり

大阪府豊能町で2017年に女性活躍室が発足し、翌年に「とよのわたし研究室」がスタート。一人ひとりの“これからのわたらしい生き方”を研究する講座に、これまで25名の住民・職員が参加した。

京都の(一社)こころ館さんのプログラム「わたし研究室」を人材育成事業に導入しました。受講した方が起業したり、市民団体が立ち上がったりと、自分らしく地域を変革する住民さんの増加を実感しています！



豊能町住民人権課 女性活躍室  
南 小百合さん

SOU-MU NIGHT



組織のバックオフィス業務を担う人やそれを支援する人が集まり、お互いの仕事を学び合い、未来の総務のあり方について語り合う場。素朴な悩みからIT化、効率化まで様々なテーマが飛び交い、チャットツールでの継続した交流からも新たな活動が生まれている。参加者が積極的に運営に携わり、京都・東京を中心に活動を拡大中。

KUMIKI PROJECT



神奈川県参加型リノベーションプロジェクトが京都市内に広がり、場に関わる人たちが共に空間をつくるワークショップを開催。事業の発端は東日本大震災後、岩手県陸前高田市での集会所作りだった。京都市下京区の(株)ウエダ本社との協業では、鍼灸整骨院の社員と家族に加え、町に暮らす人との関係性を繋ぐ共創型のお店づくりが実現した。



学び育つ場

そもそもを捉え直し

新しい視点をもつ

イノベーション・キュレーター塾

社会的課題とビジネスをつなぐ支援者を増やし、持続可能な社会の実現を目指す

キーワード	
俯瞰	価値の創出
本質	SDGs
	エコシステム 多様性
アート思考	バックキャスト
	意味付けを変える
つながり	デザイン思考

社会の課題を「自分ごと」として捉え、ビジネスや組織をイノベティブに導く人を育成する塾。目の前の課題を解決するだけでなく、事業者の目指す未来へ向けて伴走する力を身につけ、社会的課題の解決と課題を生まない社会の実現を目指す。

フェアトレード普及の実践者である塾長のもと、塾生は10ヶ月間、学びと実践を繰り返し、多様な視座を養う。経営者、士業やコンサルタント、組織内で戦略立案を行う人、起業家など、様々な立場の人がイノベーション・キュレーターになることで、企業の社会との向き合い方を変えていく。

視座を高く持ち、自らの実践を加え、社会を動かす

2015年にスタートしたイノベーション・キュレーター塾。「俯瞰して情報を拾い上げ、新たな未来を創るための価値観を創出しビジネスに実装する人材」を輩出し、卒業生たちは現在様々なフィールドで活躍しています。しかし、複雑化する社会課題は、地球規模で顕著化し、資本主義経済の限界に多くの人が気付いています。従来型の問題解決や発想を飛び越えてイノベーションを起こしていく人材を、共に学びながら、育成していきます。



塾長  
(株)福市 代表取締役  
高津 玉枝さん

OTHERS その他の取組



素材から学ぶくらしの学校

「これからの1000年を紡ぐ企業認定」の認定企業が、素材提供や講師としてプログラムに参加する京都市のエンカル消費啓発事業。小学生を対象に「素材から学ぶくらしの学校」として3年間開催。



京の企業「働き方改革チャレンジプログラム」

多様な人材が能力を発揮し、成長できる働き方とは。経営者と従業員が対話を重ねながら、先進事例のインプットと社内での実践を繰り返す取組。一人ひとりが「自分ごと」として、本質的な働き方改革に挑戦した。



共創リーダーシップ・ファシリテーション塾

解くべき問いをたて、想いを引き出し、新しい組み合わせを引き起こす、新しいリーダーシップを学ぶ塾。安心して失敗できる場での実践演習を通して、共創の場の設計と運営スキルを6日間のプログラムで身につける。



学び場 とびら

人生を豊かにする学びを得るために、本物に出会うこと、生き方について考えること、自らやってみることをコンセプトに作られたシェアスペース。オープン参加の毎日1時間朝礼など、多様なチャレンジを実施中。

SOCIAL IMPACT

これまでにイノベーション・キュレーター塾生が「身につけた学び」を提供した企業数・人数

488社

6,528人

VOICE&ACTION 卒塾後のアクション

「おもしろいよ」に引っ掛かり思わぬことになりました



「おもしろいよ」と軽〜いお誘いを受けて直感的に入塾しました。新しい景色に出会い、仲間と学び合い、自己成長を実感しました。経営者として「どう在りたいか」「何をしたいか」が明確になりましたね。それを実践するためのスキルとマインドを学ぶ必要性を感じ、「共創リーダーシップ・ファシリテーション塾」を開催することになるとは予想もしませんでした。



(株)アグティ 代表取締役  
齊藤 徹さん

自分で社会を変えようとするのではなく、みんなで変える。

自身の行動が社会に影響を及ぼしていると感じ、広い視野で物事を捉えられるようになりました。多くの人が自発的に社会を良くする動きをしやすくなればと考え、働く環境を整える事業をさらに推進していきます。



(株)アイトーン 代表取締役  
篠田 拓也さん

毎月塾に通えたことが最大の成果だったと今は思います

塾に通っていた10か月は、個性豊かな同期と、毎月、過去・現在・未来を行ったり来たりしながら人生を考え続けた日々でした。卒業後は、これまで以上に自分で考え、思うとおりに行動できるようになったと感じます。



鳥取県庁  
河野 小夜子さん



A-KIND 塾

「思い」を「事業」にする  
技術を学ぶための塾

いずれも、持続可能社会に貢献していく「思い」を「事業」にする技術を学ぶための塾。社会のあらゆる事象を掘り下げる視点の提供から始め、同期との研鑽、卒業生とのつながりを経て、自らがセーフティネットと言えるコミュニティを体感し、事業に磨きをかけていく。持続可能な未来を目指して事業をする全ての人を「社会事業家」と見なし、民間向けを「A-KIND塾」、公務員向けを「未来設計実践塾」として開講。両塾の卒業生交流から、民間共助の動きが生まれ始めている。

VOICE&ACTION 卒塾後のアクション

より良い社会を築くための  
大人が学ぶ塾

A-KIND塾では、塾長の経営者・商人としての豊富な経験から様々なことを学びました。仲間とともに社会事業を実践できたことも有意義でした。塾での学びや人との縁をきっかけとして、私は新たな仕事に取り組んでいます。



&MARKET  
矢端 信也さん



未来設計実践塾

ろうの方から教わった  
「分かり合う」ための対話

未来設計実践塾で、望む未来は、どれだけ共感を得て、運動できるかによることを学びました。会話の方法は、人によって様々ですが、伝える、分かり合う会話の可能性を、塾で会った仲間とも追求していきたいです。



京都市保健福祉局  
障害保健福祉推進室  
本田 耕志さん

孤立を生まない社会を目指す

行き過ぎた金融資本社会の下では、格差や孤立によって苦しむ人が増え続けるとの問題意識から、お金を介さず人と人が助け合う関係性も暮らしで生かされる社会を目指して12年目。無利子・無担保・無保証融資や助成、社会事業塾によって、問題の解決に向かう社会事業家を応援してきました。また、当財団各種事業参画者と助け合いのコミュニティをつくっていくことで、孤立を生まないセーフティネット構築を自ら試行しています。



塾長  
(公財)信頼資本財団 代表理事  
熊野 英介さん

公益財団法人 信頼資本財団

人間関係や自然との関係が資本になる信頼資本社会を目指し、無利子・無担保・無保証による融資や市民の皆さまの共感を集める助成制度により社会事業を応援する。

SOCIAL IMPACT

信頼資本財団のコミュニティ  
\*累計(2019年末)

無利子融資先 ..... 37団体  
助成先 ..... 64団体  
知恵知見登録者 ..... 556名  
卒業生 ..... 120名

OTHERS 京都市内の学ぶ場の広がり



京都大学 | 技術イノベーション  
事業化コース

起業家や新規事業担当者を対象に、京都大学の研究成果とのマッチングを行い、事業化プランを作成。最新技術やアイデアを用いて社会課題を解決する事業創出を促進し、投資家へのプレゼンまで実施する。



龍谷大学 | ユネスソーシャル  
ビジネスリサーチセンター

仏教の観点で持続可能な社会を考え、地域と共にソーシャルビジネスを推進するための研究と共同事業、人材育成を行う。世界に80以上あるセンターと連携し、若い世代の志を活かす事業の発展に注力する。



京都府立桂高等学校 | 高校生  
ビジネスプラン・グランプリ

高校生ビジネスプラン・グランプリに第1回(2013年度)から7年連続出場し、うち6回は準グランプリなどを受賞。2018年にはバナナの皮から自然農薬を開発し、フィリピンの社会課題の解決策と共に発表した。



同志社大学 | 日本ソーシャル・  
イノベーション学会

「ソーシャル・イノベーション学の創発」というテーマを掲げ、発展途上にある「ソーシャル・イノベーション学」がどのような価値を生み出せるのか、どのような役割を担えるのか、その存在意義と可能性を議論する場。



素材から学ぶくらしの学校

「これからの1000年を紡ぐ企業認定」の認定企業が、素材提供や講師としてプログラムに参加する京都市のエンカル消費啓発事業。小学生を対象に「素材から学ぶくらしの学校」として3年間開催。



京の企業「働き方改革チャレンジプログラム」

多様な人材が能力を発揮し、成長できる働き方とは。経営者と従業員が対話を重ねながら、先進事例のインプットと社内での実践を繰り返す取組。一人ひとりが「自分ごと」として、本質的な働き方改革に挑戦した。



共創リーダーシップ・ファシリテーション塾

解くべき問いをたて、想いを引き出し、新しい組み合わせを引き起こす、新しいリーダーシップを学ぶ塾。安心して失敗できる場での実践演習を通して、共創の場の設計と運営スキルを6日間のプログラムで身につける。



学び場 とびら

人生を豊かにする学びを得るために、本物に出会うこと、生き方について考えること、自らやってみることをコンセプトに作られたシェアスペース。オープン参加の毎日1時間朝礼など、多様なチャレンジを実施中。



sisam cinema

社会課題をテーマにした映画の上映会を、毎月1回店舗で開催。参加者同士が感想を共有する時間を設け、フェアトレードやシリア内戦、児童労働など、世界の様々な問題について考えるきっかけを提供する。



aeru school

子どもから大人まで、日本の伝統技術や素材に触れ、暮らしの中での観察力や言葉にする力を磨く教室。ワークショップなどの体験を通して、これからの時代に必要なクリエイティブイノベーション能力を身につける。



マザーハウスカレッジ

情熱を高め合い、その情熱を実現するために必要な思考を鍛え合う場。社会変革に挑戦し続けているスピーカーとのトークセッションから、理念とビジネスを両立させるための、社会に対する視点や戦略を学ぶ。



ワコールスタディホール京都

女性の「美」を軸に、食、暮らし、運動など様々な講座を開講。ライブラリー・コワーキングスペースとギャラリーを併設し、見た目だけでなく感性や知性、社会のありように至るまで、未来へ向けて多様な美を学ぶ場。

# OPEN INNOVATION 2.0

従来のコラボレーションを超え、市民や複数の企業や組織との連携を担うプロジェクトや場がうまれています。

## 新大宮広場

「空き地から広場へ」皆でつくるコミュニティの場所



「商店街にある100坪の空き地を地域活性的場にしたい。」土地の所有者の呼びかけに、企業、大学教授、建築家、地域住民などが集まり、芝生やキッチンを備えたレンタルスペースを立ち上げた。様々なイベントで賑わう広場が誕生。

人生最高の「遊び」とは何でしょう？それは「学ぶ」ことだと思います。では人生最良の「学び」とは何でしょう？それは「遊ぶ」ことだと思います。遊びと学びを交わせながら、みんなで作り続ける場所。それが新大宮広場です。  
(有)キタ商事 取締役 荒川 朋彦さん



開設から1年余り、多くのご支援と共感をいただき、会員数も90以上の個人と団体を数え、平日は予約でいっぱいになってきました。今後は、皆の居場所の実現に向けて更なる取組を進めています。  
(株)フラットエージェンシー まちづくり推進室長 寺田 敏紀さん

荒川さんの物件を提供して地域を元気にしたい気持ちと、それに呼応した多様な人達が、それぞれの得意分野で地域を活性化させる方法を真剣に考えました。今後ますます皆に喜ばれる場になってほしいです。  
mumokuteki ディレクター 廣海 緑朗さん



## クラフトビール部

クラフトビールを京都の文化として育てていきたい



多様なクラフトビールを楽しむ、醸造家と共に「クラフトビールの文化」を京都に根付かせていく有志が集うユニット。2018年11月からイベントの開催や、醸造家と一緒に麦汁を作るワークショップなどを実施。

2019年は伏見の亀馬通り商店街や東本願寺前の広場、京都水族館でイベントを開催しました。ただビールを飲むだけではない、「クラフトビールを京都の文化にする」ための取組をさらに広げていけたらと考えています。  
(株)翠灯舎 代表取締役 田中 都后さん



クラフトビール部のみなさんとブルワリーとが一緒になって、京都のクラフトビールを盛り上げていきたいですね。ビールの飲み手と作り手が楽しめる取組を広げていって地域が元気になっていたら最高です！  
京都ビアラボ オーナー 村岸 秀和さん

水族館でクラフトビール？ ミスマッチのようですが、どちらも自然と笑顔になりほっこり癒されるという共通点があります。ご縁を頂き、地元京都のクラフトビール認知拡大と地域活性化に貢献できて嬉しかったです。  
京都水族館 館長 松本 克彦さん



## my turn

仕事も子育ても自分らしく。ママたちの活躍の場を創出



子育て中の女性が集まり、イベント開催や商品企画、企業広報など、それぞれのスキルと意欲を活かしたプロジェクトを生み出すチーム。家族との時間も大切に、自身の将来を描けるウェルビーイングな働き方の実現をサポートする。

変形した真珠や色のついた真珠など、今まで日の目を見なかったものが皆さんの創意と工夫で素晴らしい商品となり、感動しました。真珠に新しい価値を見出すことができ、これまでの概念が変わりました。  
(株)アイ・K 代表取締役 河井 淳さん



メンバーの成長と変化にスピードを感じています。皆のイキイキとした表情が全てを物語っているのではないのでしょうか。これからの社会に必要な「共感コミュニティ」の新しいカタチがこの場から生まれています。  
トミープランニング代表 福富 雅之さん

社会に一歩踏み出すきっかけをもらいました。私は3人の子育てをしながら活動しています。個性豊かな仲間たちに日々刺激をもらいながら、得意な分野でスキルを磨き、考え方や生き方を学べる場です。  
my turn 整理取納アドバイザー 中村 あゆみさん



## TRAFFIC

創造的に働くためのINTER-LOCAL WORKSTATION



創造的な働き手が、一人、一社では叶えにくい願いを叶えるOSとしての会員制オフィスサービス。「働く環境の総合商社」である(株)ウエダ本社と、「未来が歓迎するビジネスをつくる」(一社)リリースが運営しています。

〈ハードウェアとしてのオフィス〉ではなく〈ソフトウェアとしてのオフィス〉として、規模の大小に関わらず未来を切り拓く仕事に必要な、場と、学びと、出会い、そして専門的サポートを提供しています。  
(株)ウエダ本社 両角 聖人さん



TRAFFICは空間的自由・時間的自由・精神的自由という3つの「F」が交差する、というコンセプトを体現するように、企業やNPOの人も、ママもアーティストも、多様な仕事日々表現されています。  
Will Management Company 代表 戸川 直美さん

INTER-LOCALな交差点であろうとするTRAFFICの姿勢に共感して、ビジネスリーダー、デザイナー、アーティストなど、京都・ベルリン間を多様なプレイヤーが行き交い共創する取組をつくっています。  
NION 共同創始者 井口 泰保さん



## QUESTION

金融機関の新たな挑戦「様々な人の『?』が集まる場所」



京都信用金庫 河原町ビルが、コワーキングスペースや学生の活動スペース、カフェなどを併設して生まれ変わる。企業、学生、住民、起業家など様々な人が集い、社会への間いや気づきが生まれるコミュニティの場として今秋開業予定。

パートナーとして関係性を深めていくことで、京都信用金庫の可能性を感じることができました。ワークスペース運営の経験を活かし、人と企業の新たな出会いや交流を通じて創発的な場づくりに貢献していきます。  
(株)ツナグム 代表取締役 田村 篤史さん



「何かを実現したいと強く想っている人が、誰かと出会える場」が、新しいビジネスやサービスが生まれるためには必要です。新しいチャレンジ「ナイストライ！」が奨励される場を皆さんと一緒に作ってまいります。  
(株)クロスステック・マネジメント 取締役 吉田 大作さん

本当の意味での「共創」で実現する、新しい地域金融機関の在り方を皆さんと追求していけることが楽しみです。学生が多様な生き方に出会い、京都から広い世界を、体温を持って感じられる場になるよう尽力します。  
(特非)グローバル人材開発センター コーディネーター 山田 瑩さん



## 祇園祭ごみゼロ大作戦

祇園祭宵山にリユース食器を導入しごみ減量！



来場者約50万人、日本最大級・約21万食分の使い捨て食器をリユース食器に切り替える活動。2014年にスタートし、可燃ごみを60トンから34トンに削減。様々なステークホルダーと共に持続可能な祭りのあり方を模索し、実践する取組。

祇園祭を環境配慮型に変えることで、全国の祭り・イベントへの広がりが市民の方々のライフスタイルの変化を実感しています。販売する人や買う人が処理費用や責任を負う仕組みについても皆で考えていきます。  
(特非)地域環境デザイン研究所 ecotone 太田 航平さん



先人の残した文化を継承し、各山鉦の融和を図りながら皆さんに喜んでもらえる祇園祭を続けるために、宵山の散乱ごみは大きな課題でした。この取組により、祇園祭をさらに楽しんでいただけたらと思います。  
(公財)祇園祭山鉦連合会 大嶋 博規さん

毎年ボランティアとして仲間と共に参加させていただいています。効果が実感出来ると同時に環境学習にもつながることから、このような取組が京都から全国に広がっていくととても良いと思います。  
ボランティアスタッフ 中西 俊嗣さん



## GOOD NATURE STATION

体・心・地域・社会・地球、全てによいことが選択基準



循環型社会に寄与するライフスタイルを提案する、(株)ビオスタイル(京阪グループ)の複合商業施設。産地へ出向き、生産者と対話しながら集めた有機野菜やオーガニックコスメが店舗に並び、3階には高島屋京都店との通路を設置。

地元で長年高いものづくりをされている方々との出会いを大切に、店づくりを進めてきました。皆さんが扱う商品の魅力を世に伝える場として、一緒に京都を盛り上げる存在でありたいと考えています。  
(株)ビオスタイル 代表取締役社長 高原 英二さん



漆職人や設計士など多様な方々が、専門を超えて「発酵」という世界の具現化に思いを馳せ、各自の仕事をもっとするという、まさにぬか床のような仕事でした。今後もこの場で挑戦を繰り返したいと思います。  
(株)発酵食堂カモシカ 代表取締役 関 恵さん

箱庭の風景や客室の間の素足で歩く感触など、京都を育む自然を頭よりも肌で感じられ、心も体も開放してくれるホテル。ガーゼのパジャマも素晴らしい触り心地で。新たな暮らしを提示してくれる場所です。  
(株)大和総研 調査本部 研究主幹 河川 真理子さん



## ADDRESS

サブスクリプション型の多拠点生活プラットフォーム



日本各地に拠点を構える定額住み放題サービス。増え続けている空き家を活用し、多拠点生活を提案する。各物件には家守が常駐し、会員同士や地域住民との交流をサポートしてくれる。自治体や企業と連携して事業展開をしており、法人利用も可。

家是一つ、住所も一つという常識は過去のものにできる時代がやってきました。ADDRESSは多拠点生活を通じて、様々な地域の人たちとの関わりを生み出し、都市にも地方にも暮らしの選択肢を広げていきます。  
(株)アドレス 代表取締役社長 佐別当 隆志さん



急激な人口減をチャンスと捉え、都市部と地方をつなげる多拠点居住サービスから「孤独の解消」を実現し、明るい未来をつくりたい。京都を世界NO.1のアイデアシティにすべく一歩ずつSILKと歩んでいきたい。  
(株)アドレス 京都伏見家守 高本 昌宏さん

ADDRESSがなければ行く機会が無かった場所に行くきっかけになったこと、家守やご家族、会員、運営側の方々、ADDRESSに興味のある人と繋がれたことが良かった。これからも広がっていくのが楽しみです。  
(同)アンサゴ 代表 永松 ゆきさん



## SILKの作り方

枠組みを決めない伴走支援を行います。多様性を保持するための「3つの方針」をもとに、多様な人・組織との関わりを広げ、オープンイノベーションを促進します。

### 1. 支援メニューをもたない

SILKは固定の支援メニューを持ちません。最初に決めた手法や数値目標の達成にとらわれず、常に問いを持ちながら、事業者や社会の状況に合わせて支援のあり方を変化させていきます。支援を通して、社会課題や未来のあり方など、まだ誰も正解を持っていない問いについて一緒に考える場を創出します。

### 2. 一人ひとりが力を発揮できる状況をつくる

コーディネーターの職業は、税理士、中小企業診断士、コンサルタント、研究者、クリエイター、まちづくりに関わるプランナーなど様々。さらにアドバイザー等に京都市内外のメンバーを迎え、一人ひとりが活躍できる環境をつくっています。SILKという場を起点に、メンバーそれぞれのプロジェクトが広がっています。

### 3. 協業を促し、クラスター化を促進する

「ソーシャル・イノベーション・クラスター構想」をもとに、オープンイノベーションによるプロジェクト開発を支援。SILKが主催するのではなく、行政の各部署や地域企業、教育機関の連携を促します。京都はもとより全国にソーシャル・イノベーションを広げる活動をしています。

## SILKの事業相談会



予約制の事業相談会。社会的な事業やプロジェクトの開発のほか、対話を通じて、叶えたい未来を実現するために人や組織をつなぐコーディネート支援を行います。(毎月開催/事前予約制)

## SILKオープンデー



京都市内のどこかで不定期開催中。どなたでもお気軽にお越しください。

## SILKへの視察/視察先のコーディネート



京都市の取組やSILKの活動について、京都のソーシャル・イノベーションのエコシステムについてなど、視察の受け入れを随時行っています。支援先の事業者訪問を交えた視察などをご希望の場合は、ご予算に応じて企画させていただきます。

\*詳しくはSILKホームページをご覧ください。

## ABOUT US

名称 公益財団法人京都高度技術研究所 (ASTEM)  
設立 1988(昭和63)年8月9日(京都府知事認可)  
理事長 西本 清一  
担当部署 京都市ソーシャルイノベーション研究所 (SILK)

Email [silk@astem.or.jp](mailto:silk@astem.or.jp)  
TEL 075-366-5527  
FAX 075-366-5529  
URL <https://social-innovation.kyoto.jp>

WEBサイト



FACEBOOK



## ACCESS

〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134番地

電車 JR嵯峨野線 丹波口駅より徒歩5分  
阪急西院駅または大宮より徒歩15分

バス 市バス、京阪京都交通バス 京都リサーチパーク下車  
京都バス 五条千本 下車 徒歩2分



## MEMBER

※2020(令和2)年4月現在

### 【所長】

大室 悦賀

### 【アドバイザー・フェロー等】

高津 玉枝 / 桜井 肖典 / 秋山 怜史 / 志野 元信 / 杉原 恵 / 高本 昌宏 / 但馬 武 / 福富 雅之 / 山中 はるな

### 【事務局長】

菅野 周二

### 【次長】

井上 陽平

### 【イノベーション・コーディネーター】

秋葉 芳江 / 石井 規雄 / 井上 良子 / 木村 響子 / 阪本 純子 / 田中 慎 / 前田 展広

### 【コンシェルジュ・広報】

川勝 美智子 / 石田 尚子 / 具志堅 陽子 / 柴田 明